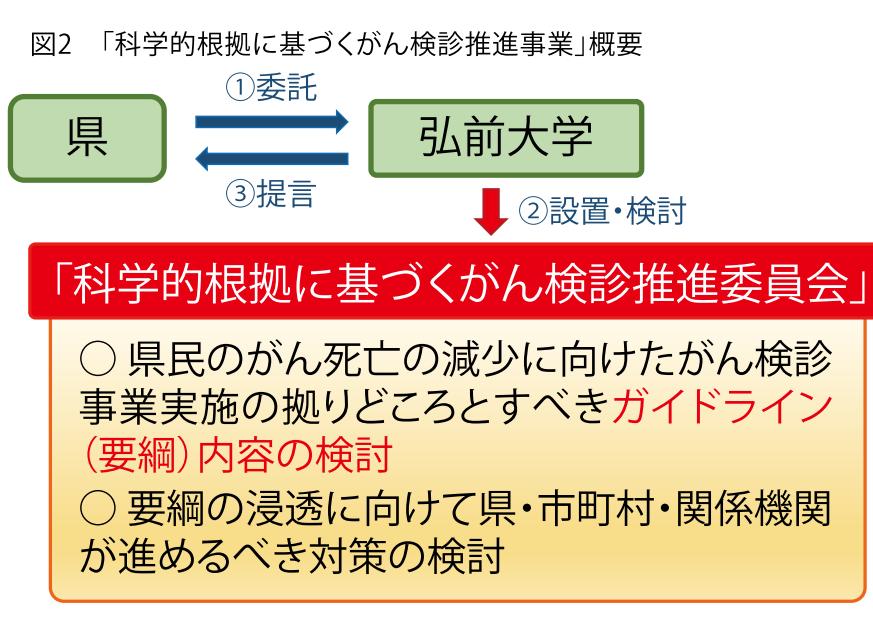


# 科学的根拠に基づくがん検診推進委員会 からの提言

青森県健康福祉部がん・生活習慣病対策課  
がん対策推進グループ



図1(右から県医師会高木会長、三村知事、弘前大学福田学長、斎藤がん検診管理指導監)



とりわけがん検診における県の取組を加速化するよう意見があつたほか、専門家の先生方からは、市町村や学術機関、医師会等、がん検診に携わる関係機関と認識を共有しながら対策を進めています。

## 科学的根拠に基づくがん検診推進委員会について

本県のがん死亡率の改善は長年の課題であり、平成27年度には弘前大学大学院医学研究科寄附講座「地域がん

を立ち上げました。本事業では令和3年度に「科学的根拠に基づくがん検診推進事業」を立ち上げました。本事業では本県医療分野の牽引役である弘前大学へ、がん検診の関係者や有識者等で構成する委員会を設

図3 「科学的根拠に基づくがん検診推進委員会」構成委員	
● 弘前大学長	弘前大学 福田学長の呼びかけにより、県医師会・市町村・検診機関・国立がん研究センター・教育機関等、関係者や県内外の有識者で構成されています。
● 青森県医師会長	本委員会では、初回の会議において本県の現状やがん検診に関する基本事項を共有のうえ、検討会開催等を重ねることにより、がん検診ガイドラインの内容や、必要な対策について協議・検討を進
● むつ市長	参加をいただき、がん検診の実施主体としてのご意見等を踏まえながら検討を進めることができたことは、本取組を実行性のあるものにするため大変有意義であったものと考えます。
● 深浦町長	本委員会では、初回の会議において本県の現状やがん
● 県総合健診センター所長	検診に関する基本事項を共有のうえ、検討会開催等を重ねることにより、がん検診ガイドラインの内容や、必要な対策について協議・検討を進
● 市町村保健師代表	なことにより、がん検診ガ
● 県内外の各分野有識者	イドラインの内容や、必要な対策について協議・検討を進
● 県保健所長会代表	なことにより、がん検診ガ
● 県健康福祉部長	イドラインの内容や、必要な対策について協議・検討を進

長期的に見て改善しているものが多いためですが、全国と比較するとがん死亡率が高い状態が続いています。

このような現状もあり、県が設置する協議会において委員の皆様から、がん対策、

背景・経緯(科学的根拠に基づくがん検診推進事業について)

本項では提言に至る経緯と提言の要旨、これから県の取組についてご紹介します。

(図1)。

一方、令和3年12月に公表された都道府県別のがん死亡率の最新の現状では、75歳未満年齢調整死亡率という指標を用いて全国と比較した場合、本県は「全部位・子宮・乳房・大腸・胃・肺」だけを見ても軒並み全国の下位(死亡率が高い状況)に位置しております。全部位は17年連続、大腸は15年連続全国最下位を継続しています。これまでの取組の成果により、がん死亡率は